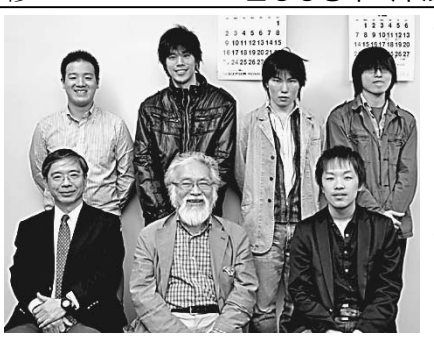
学生囲碁界に専大あり

囲碁部　1部リーグに昇格

全日本学生囲碁連盟団体戦関東春季リーグで2部に昇格したばかりの囲碁部（顧問＝内野明商学部教授）が快進撃を続けている。秋季リーグで2位となり、来春は1部で戦う（1部リーグ下位2校が自動降格）。部員数「5人」の少数精鋭で、着実に実力を発揮している。



▲　囲碁部のメンバーと内野顧問（前列左）、前顧問の殿村晋一名誉教授（同中央）

代表・花巻未生さん　全日本学生囲碁十傑戦を連覇

秋季大会後半は、主力の花巻未生さん（経済3）が資格試験、大熊悠人さん（二部法2）がプロ試験のため欠場という苦しい戦いだったが、成績を収めた。

部員たちはそれぞれ道場に通うなどして、精進している。内野教授は「部内で切磋琢磨できる恵まれた環境。部室を確保できればさらに力がつくと思う」と展望を語る。

花巻さんは11月15、16の両日に京都市で行われた第45回全日本学生囲碁十傑戦（朝日新聞社・全日本学生囲碁連盟主催）で連覇を果たした。決勝は昨年と同じ糸山剛志さん（早大）。対戦成績2勝2敗という因縁の相手だが早々に優勢にたち、そのまま守り切った。

10月28日からタイ・バンコクで開かれた「第13回アジア国際大学生囲碁選手権大会」でも活躍。個人では5位（日本から金子太一さん（経営2）、王景弘さん（商2）、俵友祐希さん（二部経済1）が踏んだ）の参加3選手の最上位）、団体では強豪・韓国をかわして見事に初優勝を果たした。「この大会のおかげで、ペースを取り戻すことができた。韓国や中国との力の差はそれほど感じなかったが、個人戦ではもう少し上位にいきたかった」と話す。

▲　十傑戦を連覇、笑顔を見せる花巻さん（写真提供：朝日新聞社）

十傑戦には俵さんも出場し、「学生囲碁界に専大あり」と注目を集めた。花巻さんの今後の目標は「十傑戦3連覇」。大熊さんはプロ試験合格。金子さん、王さん、俵さんは「団体戦で負けないよう頑張ること」と話す。

「このメンバーなら1部優勝も夢ではない」（花巻さん）という囲碁部に注目しよう。

当日は「選手たちを精いっぱい応援したい」と中川祥子さん（経営1）らマネージャーやほかのメンバーもかけつけた。「優勝は選手だけの力ではない。応援に来てくれた皆さんに感謝したい」（松林さん）、「優勝を狙っていただけにうれしい。みんなで涙の胴上げをした」（阿部さん）、「走ることは生きがい。記録を追うだけでなく楽しんで走る喜びを知った」（元木さん）などメンバーは充実感でいっぱいだ。

トップを走った山田さんは勝因を、「仲間を信じて走ったこと」と語り、「次は24時間リレーを狙う」と後輩たちと誓い合った。

走好会

走った！109キロ

▲　前列左から松林、山田、元木、後列右から横山、阿部、白田の各選手

専修大学走好会（会員50人）のメンバーは、10月4日、神奈川県平塚市の平塚総合公園で開催された〝市民マラソン〟第11回「24時間ゆめリレー」の6時間リレー競技に出場。優勝を果たした。

出場メンバーは元木倫太郎さん（商3）、阿部寛史さん（法2）、松林龍哉さん（同）、横山友敬さん（商1）、白田誠さん（経営1）、山田大輔さん（平20経済）の学生5人と校友1人。

同競技は6時間の制限時間の中で、タスキをつないで走行距離を競う。当日は約110チームが出場。快晴、無風の絶好のコンディションに恵まれ、走好会メンバーは全員が快走。109・31キロ月には、東京・夢の島で

6時間リレーで優勝

「仲間を信じて」タスキつなぐ

を記録した。途中、2位の東京理科大チームにリードを許したが、3時間を過ぎたところで抜き去り、約1・7キロの差をつけテープを切った。

出場のきっかけとして学生メンバーが口をそろえるのは「〝鉄人〟山田先輩から刺激を受けて」。今年、順天堂大学大学院の24時間マラソンに優勝。応援に駆け付けた学生メンバーたちは「次はぼくたちも一緒に走ろう」と心をひとつにした。

夏休みには長野県菅平で7日間の合宿を行い、「1日45キロ走ったこともあります」（松林さん）など大会に向け、練習に練習を重ねた。

スポーツ健康科学研究科に進学した山田さんは、在学時から別府大分毎日マラソンをはじめ大小さまざまのマラソンイベントに出場し、好成績を収めてきた。

大学院進学後の今年6月には、東京・夢の島マラソンをはじめ大小さまざまのマラソンイベントに出場し、好成績を収めてきた。

サークル紹介

「書」で自分を鍛錬

第32回毎日全国学生書写書道展

「書写検大賞」を受賞

久保島　秀明さん（二部商2）

課題の「秋風にたなびく雲の絶えまより　もれ出づる月の影のさやけさ」を流れるような筆づかいで仕上げ、見事、第32回毎日全国学生書写書道展で書写検大賞を獲得した久保島秀明さん（二部商2）。

同展ではこれまで何度も入賞を果たした。今回は、課題の文字を指定された日時・会場で毛筆書きする「席書の部」と、自宅などで書いた作品を応募する「公募の部」両方にチャレンジ。合わせて1万5667点の応募の中から「席書」で初のビッグタイトルを射止めた。

練習で事前に500枚を書きあげ、「入賞した『席書』作品より『公募』に出した作品の方が、自分は気に入っているのですけど」と微笑んだ。

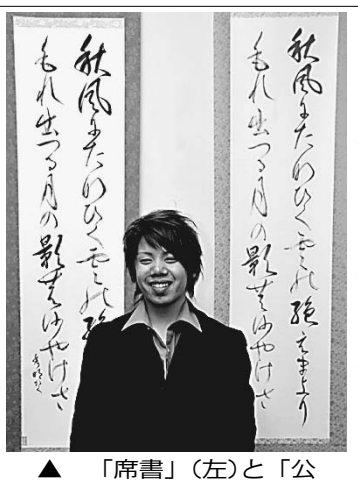
「母が書道教室を開いていた影響で」書道を始めたのが、小学校に上がった時。高校3年で東京・青梅市の「日本能力書写検定委員会（書写検）」本部の教室に通い始め、「練習を積めば積むほど自分を成長させてくれる」書に魅せられた。「書はその時の肉体や心の状態が作品に正直に表れる。忍耐力が養われ、精神的にも強くなりました」と話す。

本学には「書を続けてきた」と強くアピールし、自己推薦入試で二部商学部に入学。いまは、午前から午後3時までは書のけいこをし、夜間は大学という毎日。土・日曜日は「書写検」セミナーに参加し、栃木県や群馬県支部などにも出向き研さんを積む。書を指導することもある。

税理士を目指す。「もちろん書は続けます。『書写検』の総合師範を取り、仕事と両立させたい」。

「継続は力なり」――。ひとつの物事を続ける大切さを実感している。

※毎日全国学生書写書道展　書写の普及へ日本能力書写検定委員会と毎日新聞社の共催により毎年開催される5つの全国大会のひとつ。文部科学省の学力向上アクションプラン「学びんピック」事業に認定されている。



▲　「席書」（左）と「公募」（右）の両作品と久保島さん

互いの人格尊重しよう

セクハラ防止へ研修会

専修大学セクシュアル・ハラスメント防止委員会（委員長＝内山哲朗経済学部教授）では、大学・職場でのセクシュアルハラスメントを防止するため、正しい知識と基本的な心構えを学んでもらおうと11月28日、神田キャンパスで研修会を開催した。

講師の山田省三・中央大学法科大学院教授は、セクハラの定義や問題点、法的責任（加害者・使用者）を説明。互いの人格を尊重し、お互いが大切なパートナーであるという認識を持つこと、大学・職場では相談しやすい体制を確立していくことが防止に向けて大切であると強調した＝写真。

こんにちは！就職課です ❷

講座活用術　その弐

【学内OB・OG訪問】

卒業生が大集合！

12月20日（土）：神田キャンパス

「やってみたいけど第一歩が踏み出せない」「どのようにしたらよいかわからない」このように思っている皆さんは多いのではないだろうか。学内OB・OG訪問は、さまざまな業界で活躍する先輩が、後輩のために大学まで足を運んでくれる貴重な機会。卒業生だからこそ後輩に伝えたい「思い」は人一倍だ。その思いをつかみ取ろう！

・ポイント1　「働く」とはどういうことかを感じよう！

学生は学費を払って授業を受ける「お客様」。でも社会人は、会社から「給料」をもらって仕事をする。まったく立場が違う。自分にとって働く意義とは何か。給料をもらうとはどのような意味があるのか。先輩の話から見つけてみよう。就職活動は社会人になるための序章。学生意識からの脱却が必要だ。

・ポイント2　「なりたい姿」を見つけよう！

多くの先輩に会うことで、自分のなりたい姿をイメージできる。「こんな社会人になりたい」と思える先輩に出会えたら就職活動の目標ができる。目標が定まれば、やるべきことが明確になってくる。OB・OG訪問で目標とする社会人を見つけよう。

・ポイント3　説明会にないものを見つけよう！

会社説明会は、あくまで会社の表面的なことを伝える場。氷山でいえば海面から出ている部分だ。海面下にある多くの部分を先輩から聞き出そう。実際の働き方、仕事の大変な部分、やりがいなどは、現場で働いている人から聞くのが一番だ。

・ポイント4　事前に企業を調べよう！

参加してくれるOB・OGが勤務する企業について、事前に調べておこう。どのような事業を行っている企業で、どのような仕事があるのか。ホームページなどで調べたことを就職ノートに記入しておき、それを元に質問してみよう。漫然と出席するより、得るものは倍になるはずだ。

裁判の流れを体感　専大附属高　専大松戸高

専修大学附属高校と専修大学松戸高校の生徒らによる公開模擬裁判が11月15日、神田キャンパス法廷教室で開催された。約80人が参加、東京弁護士会法教育センター所属の弁護士のサポートを受けながら、裁判の流れを体感した。

新宿駅西口で書道展　専大松戸高

11月12～19日、新宿駅西口コンコースギャラリーで行われ、全紙大の迫力ある作品を中心に計22点が展示された＝写真。